

令和4年度

(令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)

事業報告書

一般財団法人

九州オープンイノベーションセンター

令和4年度 事業報告書について

令和4年度 事業報告書

(令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)

I. 令和4年度の事業概要

今年度は、ロシアによるウクライナ侵攻、米中対立の深刻化、燃料や原材料価格の高騰、急速なドル高・円安など社会情勢が大きく変化する中、昨年度に引き続きDX（デジタルトランスフォーメーション）に着目し、オープンイノベーションによってグローバル化および技術開発とベンチャーの創出を推進するとともに、変革を牽引する人材の育成等の各種事業を、新型コロナウイルス感染防止対策に留意しつつ計画通り実施した。

具体的には個別事業の報告に記載したが、世界のオープンイノベーション拠点との交流事業では、九州に近く従来から経済交流が活発で、いち早くデジタル化の取り組みが進む台湾に「台湾オープンイノベーションミッション」を派遣した。

また、大学のシーズからベンチャー企業を創出し産業化に向け支援していく九州・大学発ベンチャー育成支援事業を九州・大学発ベンチャー振興会議の事務局として運営し、ギャップ資金の提供等を行った。

さらに、サイバー攻撃が多発し社会、生産活動に大きな障害が発生していることを受け、九州経済産業局と連携して「DX with Cybersecurity 推進セミナー」を開催した。

九州の戦略産業の振興では、環境・エネルギー分野、ヘルスケア分野、半導体・エレクトロニクス分野の各団体の支援を行った。また、TSMCの工場進出を契機として活性化している半導体分野では、NEDOの「特定半導体の安定供給体制の構築・維持に必要な人材の育成及び確保並びにサプライチェーンの強靱化に関する調査」事業を受託し、実施した。

九州の産業成長戦略である「九州Earth戦略II」実現の一助として、オープンイノベーションによるモノづくり基盤や先端技術等の事業化を通じたイノベーションの創出に向け、中小企業の課題をお聞きするニーズ調査、課題解決に向けたプロジェクトメイク、プロジェクトの実施内容を磨くブラッシュアップ検討会、経済産業省の補助事業を活用した技術開発支援、事業化に向けた展示会出展など、入口から事業化まで一貫した伴走支援に取り組んだ。

人材育成事業では、DXを経営に取り入れるには経営者層の理解こそが重要との考えで始めた「九州デジタル経営塾」は、本年度で九州各県での開催が一巡した。次世代を担う人材向けの「九州ネクストリーダー塾」、事業計画作成の実践講座「九州オープンDXアカデミー」もDXをテーマに開催した。

また、KOIC設立3年目を迎え、地域の皆様に認知度を高めていただくため、セミナー、イベント、公募情報等のホームページの更新、メルマガ配信、SNSの活用、Web広告掲載など情報発信力の向上にも取り組んだ。

九州全域をカバーする産業支援機関として、九州イノベーション創出戦略会議（KICC）の大学・高専・公設試など62機関と、加えて、九州経済産業局、産業技術総合研究所九州センター、中小企業基盤整備機構九州本部、九州経済連合会等の関係機関とも密接に連携し、賛助会員をはじめ、頑張る中堅・中小企業のために事業を展開した。

II. 個別事業

1. 振興支援事業

43,076千円

(1) オープンイノベーションによる新事業創出支援事業 【自主事業】 (8,202千円)

① 世界のオープンイノベーション拠点との交流事業 【自主事業】 ((3,055千円))

九州は台湾に近いという地理的優位性を有し、従来から台湾との経済交流が進められてきたところであり、台湾はコロナ禍の現状において、いち早くデジタル化に取り組み、コロナの封じ込めに成功している。

こうした台湾における経済、社会、企業などのDX化の状況を調査・視察し、台湾企業との交流・連携を目的に「台湾オープンイノベーションミッション」を派遣した。

■ 台湾オープンイノベーションミッション概要

開催日	内容			
2月8日～ 2月11日 参加者:24名	台湾オープンイノベーションミッション2023 スケジュール			
	日	時間	内容	備考
	8日 (水)	12:00-14:45	福岡空港国際線ターミナル3F Bカウンター前集合 JX0841 福岡(14:45)⇒台北(16:30)	スターラックス航空
		19:00-	ホテル着後、中華民国工商協進会との懇親会	ホテルロイヤルニッコー台北泊
	9日 (木)	9:00-	ホテル出発	
		9:30-10:30	日本台湾交流協会 ・台湾の政治経済の現況、DXの推進状況の説明	
		11:00-12:00	台湾政府経済部国際貿易局 ・フォーラム主催者からの日台の経済情勢の説明	
		昼食		
		14:00-17:30	「九州・台湾経済交流フォーラム2023」 ー半導体・デジタル分野における 新たな連携強化に向けてー	国際会議センター1F
	10日 (金)	7:45-9:30	ホテル出発 新竹サイエンスパーク ・新竹サイエンスパークの概要	
		11:00-12:00	企業訪問 (AUO Digitech Taiwan)	
	昼食	新竹近辺		
	10日 (金)	14:00-15:30	工業技術研究院 (ITRI) ・九州半導体人材育成コンソーシアムと合流 ・ITRI 概要説明	
		夕食		ホテルロイヤルニッコー台北泊
11日 (土)	7:15-10:30	ホテル出発 JX0840 台北(10:30)⇒福岡(13:45)	※朝食はバス車中にてスターラックス航空	

② 九州デジタルトランスフォーメーション (DX) 研究会 【自主事業】 ((2,199千円))

本研究会（座長：村上九大名誉教授）の一環として、昨年同様、(株)DXパートナーズ（以下DXP）とデジタル変革（DX）に挑戦する企業の実践面での支援、およびDX人材の育成を目的とした「九州オープンDXアカデミー（以下、DXアカデミー）」の「第2期DXゼミルーム」を開講した。

DXゼミルームとは、DXに挑戦中の企業（DXチャレンジャー）を対象に“新規事業 by DX”を目標に、DXチャレンジャーとDXアドバイザー（=DXP）とが、アイデア出しとコメント返しの基本となる過程を繰り返し実践し、DX実装モデルを具体的に構築していこうとするもの。DXゼミルームメイトは、その模様をオンラインで視聴して学習するもので有料で募集した。

DXチャレンジャーとDXゼミルームメイトは相互にWeb上で交流することができ、このゼミを通じて知り合った人同士が共同事業などを立上げるなど、オープンイノベーションの一助となることを目指して開講した。

■九州オープンDXアカデミー概要

DXチャレンジャー	有限会社新福青果	株式会社ミスターマックス・ホールディングス
DXゼミルームメイト	7名	9名
ゼミ実施回数・時間	・1/11～3/1の毎水曜日に合計8回 ・各回ともに、事前課題に取り組んで頂いた上で、2時間/回のゼミを実施	・1/6～3/10の毎金曜日に合計8回 ・各回ともに、事前課題に取り組んで頂いた上で、2時間/回のゼミを実施

③ SDGs 経営実践研究会

【自主事業】((2,948千円))

地域企業のSDGs経営の導入を支援するため、「九州SDGs経営推進フォーラム(事務局:九州経済産業局)」と連携しながら、SDGsの基本理念や意義、思考法を理解・共有するためのオンラインセミナーと専門家によるワークショップ形式の研究会を開催した。

熊本県内企業10社が参加した研究会では、専門家によるアドバイスやプロセスの検証を行いながら、参加企業各社のSDGsブランディングに基づいた実践計画案を策定した。

令和5年2月には、長崎県と共催で長崎県内企業向けセミナー「SDGs経営推進セミナー」(ハイブリッド開催 現地:20名、オンライン:133名が参加)を開催した。

また、地方自治体が有する医療・ヘルスケア分野の課題を民間の知見や事業開発力を活用して社会実装につなげるマッチング等の機会を提供し、成功モデルの創出に向けた活動を支援した。8月29日・30日に開催された「ガバメントピッチ」には、九州から人吉市と臼杵市が参加し、当該自治体と協創・連携を希望するヘルスケアベンチャーとのマッチング協議をコーディネートする専門家を派遣した。

加えて、地域の持続可能性につながる新たな取り組みやビジネスモデル構築を後押しするため、「地域課題解決ソーシャルビジネス事業」として地域・社会課題解決に向けた実装事業を支援した*。(※福岡地域戦略会議(FDC)が推進する事業から1件支援)

■九州SDGs経営実践研究会の開催概要

回数	開催地	開催日	内容
お誘い セミナー	—	8月8日	SDGsの基本理念、経営導入のための思考法、取り組む意義を共有
第1回	熊本県	9月12日	社内プロジェクトの立上げ、コア・コンピタンス選定
第2回		11月7日	バリューチェーン分析、SDGsブランディング
第3回		12月19日	参加企業各社のSDGsブランディング計画案の策定
セミナー	長崎県	2月10日	「SDGs経営推進セミナー」の開催

■ヘルスケア分野における地域課題解決型マッチング事業

事業名	概要	実施団体
ヘルスケア分野における地域課題解決型マッチング事業	ヘルスケア分野における地域課題解決に挑戦する自治体と当該自治体との協創・連携を希望するヘルスケアベンチャーをマッチングし、次年度以降の実証に向けた骨子策定に至る各作業プロセスを深掘り・整理するため、専門家による伴走支援を実施した。	(株)官民連携事業研究所

■SDGs 地域課題解決ソーシャルビジネス事業

事業名	概要	実施団体／実施地
「MUSUBU スクール宮若」の実現に向けた社会実装事業	宮若市は、子育て世代にとって、学びの選択肢や学習塾が少なく市外の塾への送迎負担が大きいことが課題となっており、利便性を求めて市外への転出傾向が顕著である。この課題を解決するため、放課後の学校で多様な学びの場を提供することで、子供の選択肢・可能性を広げ、保護者の送迎負担を軽減するための「MUSUBU スクール宮若」事業をスタートした。宮田北小学校（10名）、宮田南小学校（18名）、宮若東中学校（2クラス55名）の各教室で英進館による放課後授業（1コマ60分）を延べ48回実施した。	九州大学産学官民連携セミナー「地域政策デザインスクール」実行委員会 宮若市

(2)九州・大学発ベンチャー育成支援事業

【自主事業】（9,455千円）

大学発ベンチャー企業創出のため、九州・沖縄の大学、産業界、ベンチャーキャピタルをつなぐプラットフォームとして、平成29年に設立された「九州・大学発ベンチャー振興会議[※]（事務局：K O I C）」は、ギャップ資金やアントレプレナーシップ教育等の提供を行い、大学のシーズからベンチャー企業を創出するエコシステムの構築を図ってきた。

今年度からは、国立研究開発法人科学技術振興機構（J S T）の大学発新産業プログラムに採択された15大学のプラットフォーム（通称P A R K S。主幹機関：九州大学、九州工業大学）と連携することにより、さらなるエコシステムの充実を図った。

8月は、実務担当者による「第7回九州・大学発ベンチャー振興実践会議」を開催し、13大学から24件のシーズが提出され、また令和2年度から始めた企業のニーズから大学のシーズを探索しマッチングさせる事業については、12企業から24件のニーズが提出された。

その後、企業からのギャップ資金提供の調整を行い、1月に24件の大学のシーズに対し2,350万円を提供した。（うちK O I Cは、12件に700万円を提供）

また、24件の企業ニーズに対し29件の大学シーズが提出され、順次マッチングを行い25件が協議継続中。なお、令和2年度のマッチングの中から2件の共同研究が開始された。

2月には、代表者による「第7回九州・大学発ベンチャー振興会議」を開催し、今年度の活動報告を行い、来年度も同様の活動を行うことが承認された。

※九州・大学発ベンチャー振興会議（令和4年12月末現在）：13大学、20企業、11金融機関、2VC、6経済団体が構成

■ 振興会議にシーズを提出後、設立されたベンチャー企業（21社）

No.	大学	研究開発の名称	提出年度	設立企業名	企業設立時期
1	九州大学	九大カイコバイオリソースと昆虫工場を用いた難発現性タンパク質の大量生産システム	H29年度	KAICO(株)	H30年4月
2	福岡大学	不妊症における治癒不能な子宮内膜着床不全の治療法の開発	H29年度	(株)キュベレ	H30年8月
3	九州大学	接触圧センサ体ウェアラブル血流計血流計の開発	H29年度	Palmens(株)	H31年3月
4	宮崎大学	宮崎県沿岸域における循環型サクラマス養殖生産事業の定着化	H30年度	(株)Smolt	H31年4月
5	九州工業大学	柔軟膜で包み込んで対象物を把持する新しいロボットハンドの開発	H29年度	KiQ Robotics(株)	H31年4月
6	宮崎大学	高機能性ヒト抗体開発シーズ	H30年度	MabGenesis (株)	R元年6月
7	佐賀大学	座圧軽減装置“フワット”の販売事業	R元年度	(株)山城機巧	R元年8月
8	宮崎大学	増殖困難な果樹台木苗の作成	R元年度	(株)RIFNUM	R元年10月
9	九州大学	生態学を体験して学ぶための教育支援アプリケーション開発	R元年度	(株)サイエンスグルーブ	R元年10月
10	九州工業大学	介護系行動認識システム及び行動認識技術の汎用化プラットフォームの開発	H30年度	(合)AUTOCARE	R2年2月
11	九州大学	音声明瞭化技術	R元年度	サウンド(株)	R2年4月
12	宮崎大学	楽しみながら「ロコモ」を改善するロボットシステム	R2年度	LOCOBOT(株)	R2年7月
13	九州大学	燃焼後排ガスからCO2を低コストに分離し貯留、供給する装置	R2年度	(株)日本炭素循環ラボ	R2年12月
14	琉球大学	海藻養殖における夏場の海水冷却システムの開発	R元年度	(株)リテックフロー	R元年11月
15	佐賀大学	AS Order : キャッシュレス決済で「安心モバイルオーダー」を地方から	R3年度	(株)AS	R2年10月
16	鹿児島大学	古い機器画面の目盛りをデジタルデータに変換する事業—反射光除去OCR技術	R3年度	(株)メタシステム研究所	R3年6月
17	福岡大学	全身投与可能なステルス化腫瘍溶解性ウイルスの開発及び社会実装	R3年度	JOCAVIO(株) (ヨカヴィオ)	R3年8月
18	熊本大学	Staple 核酸	R3年度	(株)Staple Bio	R3年11月
19	長崎大学	病気を媒介する昆虫対策に必要な研究・フィールドワーク用品の開発とその商品化	R2年度	(株)フィールドワーカーズ	R4年6月
20	琉球大学	小学生向け グローバル型 探求学習プログラムの開発及び実践の仕組みづくり 事業	R3年度	一般社団法人Qラボ	R3年11月
21	鹿児島大学	ガン標的ウイルスの医薬品開発、iPS細胞の腫瘍化根絶のベクター技術の開発、難治性肝疾患根治医薬品の開発	H29年度	サーブ・バイオファーマ(株)	R4年8月

(3)九州・大学発ベンチャービジネスコンテスト支援事業 【自主事業】（1,434千円）

一般社団法人九州ニュービジネス協議会と連携し、ベンチャー企業創出を目的に、九州地域の大学に眠るシーズの発掘を行い、大学生、高専生を中心とした若者の創造力とチャレンジ精神を養うための事業計画書（ビジネスプラン）の作成を支援し、またプレゼンテーション能力を養成する場を提供している。

今年度は、九州・沖縄8県の13大学（大学院含む）、2高専、1専門学校の合計16校から合計31プランの応募があった。第1次審査（書類審査）で18プランに絞り込み、第2次審査会では、ベンチャーキャピタリスト、地場企業のオープンイノベーション担当者、専門家（公認会計士、弁理士等）で構成される専門委員会が、予め発表者により制作された「3分動画」を審査し、コンテスト出場8プランを決定した。

12月に最終プレゼンテーション審査（コンテスト）を一般公開の下で開催し、各プランがプレゼン5分、質疑応答8分の後、専門審査委員会による審議により「グランプリ」「九州経済産業局長賞」「九州経済連合会長賞」等、各賞が決定された。

なお、「グランプリ（1位）」受賞者は「キャンパスベンチャーグランプリ全国大会」に出場し、審査員特別賞を受賞した。

また、平成29年以降、本コンテストを契機として15プランが起業化または起業化に向けて進捗している。

(4)DX推進事業（九州IoTコミュニティ事業） 【自主事業】（1,862千円）

産学官組織の九州IoTコミュニティ（事務局：九州経済産業局）と連携してDX推進事業を行い、DX with Cybersecurity推進セミナー（兼九州IoTコミュニティ活動報告会）を開催した。

アンケートでは全ての項目で9割近くが「参考になった。」と回答し、「実例を交えた説明があったので、イメージが湧き参考になった。」「サイバーセキュリティ対策の情報収集先も参考になった。」などの意見が寄せられた。

このほか、データ利活用に向けた施策説明会&相談会や地域サイバーセキュリティに対する啓発活動として各種セミナーを実施した。

開催日	実施概要
5月20日 参加者：(会場)3名 (オンライン)93名 相談：7件	●データ利活用に向けた施策説明会&相談会 in 鹿児島 ・九経局、各県、KOIC 主催で、国および県の施策説明、事例紹介（計80分）とデータサイエンティストによる相談会（20分8枠）を実施
7月26日 相談：4件	●データ利活用に向けた相談会 in 熊本 ・九経局、KOIC 主催で、くまもとDX推進コンソーシアムキックオフイベントとコラボし、同コンソーシアム会員限定のデータサイエンティストによる相談会（20分8枠）を実施
6月30日 参加者： (オンライン)94名 参加者満足度93%	●DX with Cybersecurity推進セミナー（兼九州IoTコミュニティ活動報告会） ・会長講演「IoTの本質とは？～IoTがヒトとヒトを繋ぎ、そして新しいコトが生まれる！～」 九州大学大学院システム大学院情報科学研究院 教授 井上 弘士 氏 ・中小企業のデータ利活用ビジネスに向けた取組紹介 (株)タケマン ・中小企業の事業継続としてのサイバーセキュリティ対策 九州大学 情報基盤研究開発センター 教授 小出 洋 氏
8月10日 参加者： (オンライン)41名 参加者満足度91% アーカイブ配信 視聴回数 63回	●データサイエンティスト講座（8月、9月） ・初学者向けに、データサイエンスに取り組む前に発生する問題に指針を与えるとともに、派遣実証事業につながる講演を提供。1講座6日間とし、セミナー、データサイエンスハンズオン、データ分析の導入に向けた講義の3部構成とする。 【セミナー編】 ・講演「いまさら聞けないデータサイエンス概論」 講師：株式会社D4cアカデミー代表取締役社長 和田 陽一郎 氏

8月10日 8月22日 8月26日 参加者：4名 うち分析結果発表者：2名	【ハンズオン編】 ・事業内容の解説 ・実習 ・分析結果発表会 講師：株式会社 D4c アカデミー代表取締役社長 和田 陽一郎 氏
8月31日 9月6日 9月30日 参加者：1名 うち導入企画作成者：1名	【ケーススタディ編】 ・データ分析の導入に向けた講義(1)「組織的取組に向けた準備」 ・データ分析の導入に向けた講義(2)「分析テーマの設定方法」 ・演習（個別相談対応） ・導入企画発表会 講師：株式会社 D4c アカデミー代表取締役社長 和田 陽一郎 氏
10月19日 参加者：(会場) 9名 (オンライン) 19名	地域サイバーセキュリティの推進 ●ECサイトワークショップ 【第1回】 ・講演「サイバー犯罪の現状と対策」 講師：福岡県警察サイバー犯罪対策課 高度情報技術対処センター 課長補佐 神 洋喜 氏 ・サイバーセキュリティ ECサイトワークショップ 講師：株式会社セキュアサイクル 代表取締役 服部 祐一 氏
1月25日 参加者： (オンライン) 44名	【第2回】 ・講演「地域 SECURITY の取り組みのご紹介」 講師：三井物産セキュアディレクション株式会社 執行役員 関原 優 氏 ・ネットショッピング サイバーセキュリティセミナー&座談会 講師、ファシリテータ： 株式会社セキュアサイクル 代表取締役 服部 祐一 氏 (50音順) 株式会社 FFRI セキュリティ 社長室長 前田 典彦 氏 株式会社オーイーシー DX・海外連携推進室 次長 川野 芳樹 氏 九州大学 小出 洋教授 三井物産セキュアディレクション株式会社 執行役員 関原 優 氏
2月16日 参加者：(会場) 27名 (オンライン) 50名	【第3回】 ・基調講演「サイバーセキュリティ人材育成と地域コミュニティ」 講師：九州大学サイバーセキュリティセンター 教授 小出 洋氏 ・講演「サイバー犯罪の現状と対策」 講師：福岡県警察サイバー犯罪対策課 高度情報技術対処センター 吉野 章 氏 ・パネルディスカッション「地域のセキュリティコミュニティの在り方と展望」 (氏名 50音順) 創ネット株式会社 代表取締役社長 小口 幸士 氏 九州大学 情報基盤研究開発センター 教授 小出 洋氏 三井物産セキュアディレクション株式会社 執行役員 関原 優 氏 株式会社セキュアサイクル 代表取締役 服部 祐一 氏 株式会社 FFRI セキュリティ 社長室長 前田 典彦 氏
2月1日 参加者： (オンライン) 112名	地域サイバーセキュリティの推進 ●ロールプレイ形式の演習「サイバーセキュリティインシデント対応机上演習 TTX」 工場の緊急時生産管理体制を共に考える！「中小製造業向け体験型演習」 【事前説明セミナー】 ・中小製造業向け体験型演習の概要紹介 九州大学サイバーセキュリティセンター 教授 小出 洋氏
3月8日 参加者：65名	【演習】 ・工場の緊急時生産管理体制を共に考える！「中小製造業向け体験型演習」 in 北九州
2月4日 参加者：12名	地域サイバーセキュリティの推進 ●ロールプレイ形式の演習「サイバーセキュリティインシデント対応机上演習 TTX」 「サイバーセキュリティ対策医療編」

(5)九州の戦略産業の振興

【国の補助事業等・自主事業】(22,123千円)

① 環境・エネルギー分野(K-RIP事業)

【国の補助事業等】((9,442千円))

九州環境エネルギー産業推進機構(K-RIP、会員数276)の事務局として、会員企業等の新製品・サービスの開発、資源循環ビジネス、二酸化炭素削減ビジネスへの参入やベトナム、タイ、インドネシア等の海外市場の開拓を目的として、最新の市場動向やビジネスモデル等の情報提供、業務提携を目指したマッチング、人材育成事業、海外企業との商談等の支援を行った。

(i) オンデマンド型ベトナム循環型経済・農業プロジェクト形成・促進事業

九州域内の循環型経済・農業関連企業のベトナムにおける事業展開を支援するため、オンラインミッションに参加意向のある企業の発掘に向け、計17社の企業とヒアリング・面談を随時実施した。10月以降、支援企業のPR動画の作成などを行い、17社を対象に、現地コーディネーターを通じてピックアップした現地企業および行政関係者とのオンラインによるセミナーを4回、商談を25回行った。

その後、ベトナムへの渡航が可能になったため、3月には、オンラインミッションで現地展開に特に関心が高かった企業(次表)と現地を訪問し、現地企業との商談を20回行うとともに、行政関係者との意見交換を行った。

なお、本事業の一部は、(一財)貿易・産業協力振興財団の助成事業により実施した。

■ベトナムミッションの参加企業

企業名	対象分野
A社	農業資材、暑熱対策資材
B社	石炭灰リサイクルによる透水・保水性舗装
C社	有機系残渣堆肥化、微生物資材
D社*	太陽光発電所の保守

※オンライン参加

(ii) 福岡県環境技術ビジネスWEBセミナー実施運営業務

福岡県内の環境関連企業のベトナム、タイにおける事業展開を支援するため、7月に現地の環境ビジネスニーズを知るための発表会をオンラインで現地とつなぎ開催し、県内環境関連企業22社と2機関が参加した。

それを踏まえ、11月に現地企業および行政関係者等を対象とする「福岡県環境技術ビジネスWEBセミナー」を開催し、ベトナム対象のセミナーでは13社の県内企業が、タイ対象のセミナーでは12社の県内企業がそれぞれプレゼンし、事業内容について広く情報発信した(後日、セミナーに参加した県内企業には、福岡県商工部によるオンライン商談会への参加の機会が提供されている)。

なお、本事業は、福岡県の委託事業により実施した。

■ 福岡県環境技術ビジネス WEB セミナー in Vietnam

<p>開催日時：令和4年11月8日 13:30~17:20 (日本時間) 開催方法：オンライン+オフライン (会場) のハイブリッド ハノイ会場：Ministry of Science and Technology (科学技術省) 福岡会場：九州オープンイノベーションセンター 参加者数：48名[一般申込参加者29名、パネリスト19名](運営事務局等は含まず)</p>
<p>【プログラム】 ・基調講演：「ベトナムにおける排水・固形廃棄物処理および再利用の現状と技術的要求」 ベトナム科学技術省 国立技術開発センター (NACENTECH) フン・トゥアン・トラン博士</p> <p>【第一部：水・エネルギー】 ・現地企業等のニーズ報告 (2社) ・県内企業等のシーズ発表 (6社動画再生)</p> <p>【第二部：廃棄物・一次産業】 ・現地企業等のニーズ報告 (2社) ・県内企業等のシーズ発表 (7社動画再生)</p>
<p>【プレゼン企業 (13社)】 (株)石橋技販、環境電子(株)、協和機電工業(株)、(株)ティオシステムズ、東京産業(株)、 (株)システム・ジェイディー、(株)エコウッド、(株)くりんか、トータルケア・システム(株)、 (株)グリーナー、(株)アステック入江、丸和バイオケミカル(株)、(株)アグリツリー</p>

■ 福岡県環境技術ビジネス WEB セミナー in Thai

<p>開催日時：令和4年11月11日 13:30~17:20 (日本時間) 開催方法：オンライン+オフライン (会場) のハイブリッド バンコク会場：Sukosol Hotel Bangkok 福岡会場：九州オープンイノベーションセンター 参加者数：59名[一般申込参加者39名、パネリスト20名](運営事務局等は含まず)</p>
<p>【プログラム】 ・基調講演：(ビデオメッセージ) タイ工業省産業振興局 副局長 Passakorn Chairat 氏 「環境産業の振興に向けた大気汚染、廃棄物、土壌汚染対策のご紹介」 タイ国工業省産業規制局 Dr. Kittiphan Taparugssanagorn 「タイの環境問題と福岡県企業への要望」 タイ国天然資源環境省公害管理局 Dr. Chayawee Wangcharoenrung</p> <p>【第一部：廃棄物】 ・現地企業等のニーズ報告 (4社) ・県内企業等のシーズ発表 (6社動画再生)</p> <p>【第二部：水・エネルギー】 ・現地企業等からのニーズ報告 (2社) ・県内企業等のシーズ発表 (6社動画再生)</p>
<p>【プレゼン企業 (12社)】 (株)エコウッド、研機(株)、(株)くりんか、(株)グリーナー、(株)アステック入江、 トータルケア・システム(株)、(株)ファーストソリューション、環境電子(株)、東京産業(株)、 (株)ティオシステムズ、(株)アグリツリー、(株)システム・ジェイディー</p>

(iii) グリーンテック関連分野 インドネシア企業とのオンライン・商談会業務

福岡市のグリーンテック関連企業 (資源や環境の保護に資する製品や技術、サービス等を有する企業) のインドネシアにおける事業展開を支援するため、現地企業とのオンライン商談会を開催した。

参加企業については公募により5社 (次表) を選定し支援を行った。具体的には、支援企業の動画(1分版、5分版)を作成し、オンライン商談会およびアフターフォローを実施した。

なお、本事業は、福岡アジアビジネス支援委員会の委託事業により実施した。

■ オンライン商談会の参加企業

企業名	海外展開事業名
E社	インドネシアにおける野菜シート製造販売事業
F社	インドネシアに於ける都市鉱山リサイクル事業
G社	ASEANにおける水質自動監視装置と画像処理センサ装置の販売推進事業
H社	インドネシアにおける雨水および土砂流出抑制を実現する保水性舗装土木技術の移転事業
I社	ASEANにおける太陽光発電の保守点検推進事業

② 医療機器・ヘルスケア分野(HAMIQ事業) 【国の委託事業等】 ((3, 618千円))

九州ヘルスケア産業推進協議会(HAMIQ、会員数 173)の事務局として、九州の半導体や自動車産業で蓄積した精密加工技術等を活用した医療機器分野への参入、医療・介護機関とサービス事業者のコラボレーション、医用機器メーカーの販路開拓、海外事業展開を支援、AI や IoT 技術の医療分野での活用・サービスに係るヘルスケアの需要創出等を目的に専門家を配置し支援した。

(i) 地域連携拠点自立化推進事業 【国の補助事業等】 (((3, 618千円)))

国立研究開発法人日本医療開発機構 (AMED) の地域連携拠点自立化推進事業の採択を受け、九州内の自治体、支援機関、大学等と医工連携の連携を深めた。

案件初期段階からグランドデザインを描き事業計画に基づいた伴走支援体制の構築を進め、「作ったけど売れない」から「売れる視点」の医療機器開発支援体制を整備した。

また、事業化推進支援人材育成のため、Webセミナーを中心として「人材育成プログラム」を実施。セミナー内容を保存して再利用可能な動画コンテンツを作成した。

実施事項	実施概要
案件発掘事業	発掘した開発案件に対して評価委員会を開催案件の内容に応じた継続的な支援を実施
専門家派遣	支援決定案件に対して開発段階に合わせて専門家を派遣し伴走支援国の公募に申請支援
情報提供拠点	ホームページを活用して医療機器開発に必要な基礎知識を動画配信企業の持つ優れた技術やサービスを写真や動画で紹介
人材育成プログラム	九州での医療機器開発支援人材育成のため、Web セミナーを中心に基礎講座、ステップアップ講座、ワークショップを実施

③ 半導体・エレクトロニクス分野(SIIQ事業) 【国の委託事業等】 ((9, 063千円))

九州半導体・エレクトロニクスイノベーション協議会 (SIIQ、会員数 275) の事務局として、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) が5G促進法に関連して行う調査事業を受託するとともに、九州半導体人材育成等コンソーシアムの活動を支援、教員向け研修会、佐世保高専での出前授業等を行い、半導体人材育成活動を推進したほか、新たなビジネスモデルの構築支援やビジネスマッチング支援、ネットワーク事業、研究奨励事業、情報発信事業等を実施した。

なお、同協議会は、令和5年4月に名称を「九州半導体・デジタルイノベーション協議会」に変更のうえ、法人化(一般社団法人)を行い、自主運営となった。

(i) NEDO 受託事業「特定半導体の安定供給体制の構築・維持に必要な人材の育成及び確保並びにサプライチェーンの強靱化に関する調査」事業

【国の補助事業等】 (((9, 063千円)))

半導体産業に関わる産学官および外部専門家で構成する「人材育成ワーキンググループ」「サプライチェーン強靱化ワーキンググループ」の事務局となり、人材育成・確保、サプライチェーン強靱化の基礎調査を実施した。

また、2月8日～11日(3泊4日)にかけて、台湾に台湾教育機関や半導体関連企業への人材育成に係る各種調査のため、人材育成ワーキンググループメンバーを中心とした調査団を派遣した。

これらの調査結果から、今後取り組むべき方向性について提言をとりまとめ、最終報告を行った。

(1)オープンイノベーションによる産業技術の振興 【自主事業】(1,113千円)**①九州オープンイノベーション情報サイト事業**

九州オープンイノベーション創出戦略会議（KICC）と連携し、企業等のニーズ・シーズの情報提供やコーディネータによるマッチング活動を推進し、新事業の創出を支援した。

(i) オープンイノベーション・ソリューション・サイト（OISS）の運営

OISSサイトへの登録およびマッチング支援状況は以下のとおり。なお、利用者の利便性を高めるため、3月末をもってOISSを閉鎖し、中小機構のマッチングサイトJ-GoodTechに統合した。

区分	件数 (九州サイト)	件数 (リンカーズ)	件数 (ナインシグマ)
ニーズ登録	2	118	33
シーズ登録	2	-	-
マッチング	0	1	0

(ii) 企業データベースの整備

九州内の地域未来牽引企業の製造業を対象に、KOICコーディネータ訪問履歴やKOIC支援実績（ブラッシュアップ研究会、サポイン等）をデータベース化。データベースからニーズ調査の対象企業を選定し、KOICコーディネータと18社を訪問した。

(iii) オープンイノベーションセミナー

九州経済産業局と共催で、成長志向型の中堅・中小企業、イノベーション力を秘めたスタートアップをテーマに取り上げ、オープンイノベーションを学ぶセミナーを開催した。

開催日	セミナータイトル	実施概要
2月22日	FORWARD KYUSHU INNOVATION ～ オープン・イノベーションで 切り拓く九州ジセダイX ～	<ul style="list-style-type: none"> 参加者：会場68名、オンライン：184名 基調講演 eiicon company 代表 中村亜由子氏 共創事例発表 4社（KOICからは(株)末松電子製作所を推薦） 支援機関による施策・サービス紹介 KOIC、中小機構、公庫 交流会・個別相談会

②九州イノベーション創出戦略会議（KICC） 【自主事業】((1,113千円))

九州イノベーション創出戦略会議（KICC）の事務局として、九州の62の大学・高専・公設試等と連携し、企業の技術課題解決に資する活動およびビジネスモデル構築を支援した。

(i) 通常総会・特別講演会の開催

7月28日にオリエンタルホテル福岡博多ステーションにて開催

通常総会	令和3年度事業実績報告、令和4年度事業計画（案）、役員等の選任（案）について全て承認
特別講演会	講演1：我が国のオープンイノベーションの推進と活用の視点 国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構 イノベーション推進部長 吉田 剛氏 講演2：九州のポテンシャルとOI施策の展開について ～イノベーションの担い手は～ 九州経済産業局 地域経済部 産業技術革新課長 山口 寛氏

(ii) K I C Cホームページの更新

(開放機器情報、K I C C構成機関コーディネータ・マネージャー情報)

K I C Cのホームページから検索できるK I C C構成機関の開放機器データベースの情報を更新し相互利用の促進を行うとともに、K I C C構成機関のコーディネータ、マネージャー情報を更新し企業等の技術相談等の推進を行った。

(iii) K I C C構成機関との意見交換

公設試、産業支援機関、大学・高専から8機関を訪問し、K I C C事業の紹介や開放試験機器データベース、コーディネータ等の情報活用の活性化策に関して意見交換を行った。

意見交換機関	福岡県工業技術センター、熊本県産業技術センター、大分県産業科学技術センター、九州大学、宮崎大学、佐世保工業高等専門学校、北九州産業学術推進機構、久留米リサーチパーク
--------	--

(iv) 大手企業の技術ニーズ説明会

サンスター社から九州の中小企業に向けてニーズを提示し、マッチングを図る技術ニーズ説明会を開催した。

開催日	参加者	マッチング状況
12月8日	オンライン参加者：36名	5件の提案あり

(2) 九州Earth戦略に基づくイノベーション創出事業【JKA補助事業】（13,373千円）

九州の産業成長戦略である「九州 Earth 戦略II」実現の一助として、オープンイノベーションによるモノづくり基盤や先端技術等の事業化を通じたイノベーションの創出に向け、K O I Cの職員とコーディネータが一緒に九州の研究開発型中小企業を訪問し、技術やビジネスのニーズやシーズを調査・発掘。これらの事業化に向け、企業・大学・産業支援機関とのマッチングを図りプロジェクトメイク。K O I Cコーディネータがコーディネートする研究会で解決に向けた事業計画の策定などの支援を行い、技術開発等が必要なプロジェクトは国の技術開発補助事業等の活用を図るほか、事業化に向けた展示会出展支援を行い、入口から事業化まで一貫した事業化支援を行った。

企業等へのニーズ調査・マッチングに関しては、今年度も新型コロナウイルス感染拡大による移動制限の影響を受けたが、下期で取り戻し、当初計画していた年間目標を概ね達成した。

また、技術開発の前段階となる技術課題や市場の分析を助成し、本格的な技術開発につなげて事業化を図る提案公募事業では5件を採択し、ブラッシュアップ研究会で支援した。

事業化支援の面では、当財団が支援する企業の技術等や事業を紹介するため展示会出展を行った。

さらに、サンスター社によるニーズ説明会を開催（12月8日）し、九州の中小企業と大手企業の新規取引を支援するとともに、九州経済産業局と共催でオープンイノベーションセミナーを開催（2月22日）し、オープンイノベーションを推進した。

※JKA：Japan Keirin Autorace Foundation 自転車・小型自動車公営競技を振興する公益法人
売上の一部を機械振興と公益事業の振興事業に補助している。

① 委員会、会議等による事業統括・管理

事業の方向性、事業の推進状況等を統括管理する事業推進委員会を開催するとともに、支援プロジェクト毎の進捗、課題の共有を行い、互いにアドバイスを行うコーディネータ会議を開催した。

委員会・会議名	開催日	内容
事業推進委員会	6月24日	2022年度機械振興チャレンジ研究調査の審査 2020年度JKA補助事業自己評価Ⅱ審議
	2月10日	2022年度JKA補助事業自己評価Ⅰ審議 2022年度機械振興チャレンジ研究調査成果の評価 2023年度JKA補助事業の概要説明
コーディネータ会議	5月19日	2021年度活動実績、2022年度JKA補助事業概要 コーディネータ活動について 他
	9月1日	2022年度コーディネータ活動実施状況 モノづくりフェアおよびJKA事業成果発表会について 他
	12月6日	2022年度コーディネータ活動実施状況 2023年度JKA補助事業の申請内容について 他
	3月7日	2022年度コーディネータ活動実施状況 2022年度JKA補助事業自己評価Ⅰについて 他

② コーディネータによる企業支援

企業のニーズ調査から事業化まで、一貫して支援体制を構築するとともに、事業実施プロセスの「見える化、共有化および協働化」の仕組みを導入し、支援機関等、成功報酬型コーディネータと連携し、効率的な支援を推進した。

(i) コーディネート活動（技術ニーズの発掘、シーズとのマッチング、ブラッシュアップ研究会）

マッチングの結果、13件（公募の5件を除く）のブラッシュアップ研究会を発足させた。プロジェクト毎にブラッシュアップ研究会の結果を踏まえ、改良・改善をフォローするとともに、国等の技術開発補助事業への申請および事業化に向けた支援を行っている。

ニーズ調査（コア技術調査）	マッチング	活動件数計	ブラッシュアップ研究会 発足数
83	35	118	13

（事業目標）

ニーズ調査・マッチング：120件、ブラッシュアップ研究会発足数：15件（公募の5件除く）

(ii) 機械工業振興チャレンジ研究調査（公募）

技術開発の前段階である技術課題や市場の分析を支援する大学・公設試・企業等向けの提案公募事業では、13件の応募があり、事業推進委員会の審議を経て5件を採択した。

案件毎のブラッシュアップ研究会を開催し、技術的課題の検討、市場動向の分析等を行った結果、5件とも資金獲得や事業化を目指し継続して研究を続けることとなった。

研究題目	参加機関・企業	成果
高速・高感度ワンタッチイムノアッセイキットの開発と応用	株式会社 HaKaL 西川計測株式会社 久留米大学 久留米リサーチパーク	次年度継続研究
廃棄キノコおよび廃棄農産物ヒト型セラミド製造残渣を利用した有機液肥開発とその有効性の確認	株式会社ジェヌインアールアンドディー 福岡県醤油醸造協同組合	

ハンドトーチ型ファイバーレーザー溶接機による圧力容器製造の技術開発	株式会社西田 福岡県工業技術センター 機械電子研究所	次年度継続研究
ワイヤレス給電方式動物用活動量計（センサータグ）の開発	株式会社末松電子製作所 合同会社ブレアデステクノロジーズ 株式会社アコース キッセイコムテック株式会社	
林業・水産業向け圧電素子を利用した超音波測定器用センサー開発のための検討	株式会社坂本電機製作所 福岡県工業技術センター 機械電子研究所	

(iii) セミナー・ニーズ説明会・成果報告会・展示会出展

これまでにブラッシュアップ研究会等で支援した中小企業の技術や製品等を紹介するために展示会「モノづくりフェア 2022」に出展するとともに、同フェアの中で機械工業振興チャレンジ調査研究成果報告会を開催し、販路開拓や業務提携等の事業展開の機会を設けた。

開催日	実施概要	参加・進捗状況
10月5日～ 10月7日	モノづくりフェア 2022 に出展 KOIC の支援事例および九州域内中小企業の技術や製品等を紹介し、販路開拓や業務提携等事業展開のチャンスを広げるため出展（日章工業㈱、（一社）みどりの機能性研究所の2社出展支援）	フェア来場者数：合計 20,380 名 支援企業 2 社について、 ・商談成立件数：3 件 ・見積提出件数：3 件 ・開発/製造/販売における提携件数：1 件
10月7日	JKA 補助事業成果発表会開催（モノづくりフェア 2022 内）機械工業振興チャレンジ調査研究の成果を広く紹介	参加者数：24 名
12月8日	サンスター社のニーズ説明会をオンラインで開催（KICC と共催） ビジネスマッチングを促進する説明会を実施	オンライン参加者数：36 名 ・5 件提案有
2月22日	オープンイノベーションセミナーを九州経済産業局と共催 （会場とオンラインで開催） FORWARD KYUSHU INOVATION ～ オープンイノベーションで切り拓く九州ジセダイ X ～	参加者数：252 名 （会場：68 名 オンライン：184 名）

(3) 成長型中小企業等研究開発支援事業（Go-Tech 事業※：旧サポイン事業）

【国の補助事業等】（47,360千円）

特定ものづくり基盤技術（情報処理、精密加工等の12分野）による新規事業の創出を支援するため、企業の技術と大学・高専・公設試のシーズや専門的知見を結集して行う経済産業省の産学連携型の技術開発補助事業を活用し、開発と事業化を目的としたプロジェクトに事業管理機関としてマネジメントを行った。

今年度は、2件の継続事業（サポイン事業）について、企業・大学・研究機関等の事業進捗状況などの管理・調整役である事業管理機関として効率的な事業運営を行った。

また、過去のサポイン事業16件の各実施機関に事業化状況のフォローアップ調査を行った。

※Go-Tech：基盤技術分野の新技术・新事業開発を促進する、経産省補助事業対象は中小企業・大学・高専・公設試
上限3年間9,750万円、補助率：中小企業2/3、公設試等 定額

分野	件名	補助先	成果
精密加工	車載用半導体デバイスの切断工程の工法転換を実現する刃先先端Rシングルナノメートルの刃物の開発【令和3年度～令和5年度予定】	(株)ファインテック 岐阜大学 久留米大学	令和3年度採択事業 令和4年度の計画目標を達成し、次年度も研究開発を継続
測定計測	土壌汚染を簡易・迅速に分析する重金属検出技術を活用した簡易検出材OCTES-2の開発【令和3年度～令和5年度予定】	(有)坂本石灰工業所 東京工業高等専門学校 苫小牧工業高等専門学校 熊本高等専門学校 熊本大学	

(4)他機関との連携事業

【自主事業】 (211千円)

産業支援機関や公設試のコーディネータやマネージャーとのネットワークを構築し、さまざまな相談等に対する広域的コーディネート活動を支援した。

実施日	事業名	主な内容
7月6日	KFC※特別講演の開催	KFCの事務局として総会、講演会を開催
11月14日	KFCセミツク研究交流セミナーの開催	KFCの事務局としてセミナーを開催
11月22日	九州・沖縄産業技術オープンイノベーションデー参画	(国研)産業技術総合研究所九州センターが最新の技術開発等の情報提供、各県公設試の支援事例紹介、支援機関間の情報交換および研究成果の民間企業への橋渡しに繋げるための交流の場として開催 KOICも九州全体を対象エリアとする支援機関として参画

※九州ファインセラミックス・テクノフォーラム

3. 啓発普及事業

3,284千円

(1)九州異業種交流会

【自主事業】 (467千円)

異業種の人材が自由に参加・交流することにより、オープンイノベーションに必要な新しい発想やアイデアの醸成をするとともに、多様な人的ネットワークを形成・拡大することを目的とした交流会を、アフターコロナを見据えて経営戦略を見直す上で重要な組織面の課題解消・活性化に注目し、「組織の基礎代謝」をテーマに2回開催した。

参加者の内訳は、生活サービス・インフラ、情報通信、金融、運輸・郵便、不動産、製造業、教育等、多種多様な業種の人材が参加した。

アンケート結果では、2回の交流会ともに100%が「大変満足」「やや満足」と回答し、高い満足度を得た。

開催日	実施概要
7月19日 参加者:16名 (定員:25名) 参加者満足度: 100%	『イノベーションを生み出す「不の解消」マネジメント』 ～職場の基礎代謝®をアップして 「事業発展型組織&自走自律型社員」を創ろう!～ 1.開会挨拶 2.ワークショップ(講義とグループワーク) 講師:(株)職場のSDGs研究所 代表取締役/職場の基礎代謝®専門家 白井 旬氏 3.交流会

11月2日 参加者:30名 (定員:30名) 参加者満足度: 100%	『「働き方改革×SDGs・ESG経営」で起こすイノベーション』 ～持続可能な組織づくりとSDGs・ESG経営で 「未来から愛される会社」になろう!～ 1.開会挨拶 2.ワークショップ(講義とグループワーク) 講師:(株)職場のSDGs研究所 代表取締役/職場の基礎代謝®専門家 白井 旬 氏 3.交流会
---	---

(2)九州経済を考える懇談会

【自主事業】(1,003千円)

九州の経済界のトップ※が一堂に会し、「九州経済のあり方や課題および具体的な政策」を議論し、九州戦略会議・九州知事会および国等へ意見具申・要望を行う懇談会を共同事務局の九州経済連合会及び九州経済調査協会と連携して開催した。

第2回懇談会では、昨年度K O I CからDX人材育成について提言し発足した「九州デジタル経営塾」の2年目の活動実績と来年度の活動計画について報告を行った。

※(一社)九州経済連合会会長、(一財)九州オープンイノベーションセンター会長、九州商工会議所連合会会長、九州経済同友会代表委員、九州経営者協会会長、(公財)九州経済調査協会理事長

(3)地域技術交流事業

【自主事業】(458千円)

①九州・沖縄地区国立大学法人産学官連携関連センター長等会議

九州・沖縄地区の国立大学法人と産業界等との研究業務の円滑な遂行を図ることを目的に、関連法人と当財団がネットワークを構築し、産学官連携に関する現状と課題、協力体制等について意見交換を行った。

開催日	場所	意見交換テーマ
11月25日	長崎市	・地域連携型の文科省等事業予算の獲得および支援体制について ・産学地域連携支援の取り組みと支援体制の課題について

(4)カーボンニュートラル普及啓発事業

【自主事業】(1,355千円)

カーボンニュートラルを推進するため、九州経済連合会等と連携し、「再生可能エネルギーの産業化を目指すアクションプラン(九州モデル)」実現のため、展示会への出展(次表①)、検討会を開催(次表②)した。

また、K-RIPと連携し、カーボンニュートラルにつながる海外ビジネス展開の支援として、コロナ禍で中断していた九州企業と台湾企業との連携プロジェクトを再開・推進するため、現地にミッションを派遣(次表③)し、台湾企業との商談や行政関係者との意見交換を行った。

①展示会出展

展示会名称	開催日	開催場所	内容
エコテクノ 2022	7月5日 ～7日	西日本 総合 展示場 (北九州市)	・「再生可能エネルギー産業化推進委員会」の活動・ 取り組みの紹介 ・全体来場者数:約14,000名 当ブース訪問者数:約120名

② 会議開催

会議名	開催日	開催場所	内容
再生可能エネルギー産業化推進委員会	第1回 10月7日	九経連	委員長：九州大学名誉教授 安浦 寛人 講演「今後の再生可能エネルギー政策について」 資源エネルギー庁 総括係長 平岡 侑一郎 氏 出席者：24名
	第2回 3月9日		委員長：九州大学名誉教授 安浦 寛人 講演「GX 実行会議における再エネ関連について」 資源エネルギー庁 総括係長 平岡 侑一郎 氏 出席者：25名
水素エネルギー産業化実務者会議	第1回 8月31日	オンライン	座長：九州大学大学院工学研究院 教授 伊藤 衡平 講演「九州・山口の水素ポテンシャルについて」 (株)テクノバ 総括主査 丸田 明輝 氏 「水素社会の実現に向けた企業の取り組みについて」 岩谷産業(株) シニアマネージャー 横本克巳 氏 旭化成(株) 事業開発リーダー 佐久間 雄一 氏 トヨタ自動車九州(株) 部長 弥永 明彦 氏 出席者25名
	第2回 1月18日		座長：九州大学大学院工学研究院 教授 伊藤 衡平 講演「モビリティのカーボンニュートラル実現に向けた水素燃料電池自動車の普及について」 資源エネルギー庁新エネルギーシステム課 白水 遼太 氏 「商用向け水素ステーション整備に関する考え方」 日本エア・リキード(株) マネージャー 島田 和明 氏 出席者：28名
地熱・温泉熱エネルギー産業化実務者会議	第1回 9月7日	オンライン	座長：九州大学大学院工学研究院 教授 藤光 康宏 出席者：27名
	第2回 2月20日 21日	佐賀市・唐津市	座長：九州大学大学院工学研究院 教授 藤光 康宏 講演「地熱貯留層シミュレーターの動向」 九州大学大学院工学研究院 教授 藤光 康宏 氏 出席者：20名
海洋エネルギー産業化実務者会議	第1回 8月26日	福岡市	座長：佐賀大学海洋エネルギー研究所 教授 池上康之 出席者：20名
	第2回 2月13日	北九州市	座長：佐賀大学海洋エネルギー研究所 教授 池上康之 出席者：22名

③ 台湾へのミッション派遣

・事前調査ミッション

期間	参加企業	内容
2月7日 ～11日	A社（水処理、海水淡水化、繊維ろ過装置） B社（石炭灰リサイクルによる透水・保水性舗装）	・連携プロジェクトの再開・推進及び3月の台湾ミッション派遣に向けての事前調査として、台湾企業や行政機関との意見交換を実施

・台湾ミッション

期間	参加企業	内容
3月19日 ～24日	B社（同上） C社（有機系残渣の堆肥化等） D社（野菜シート製造販売）	・2月の事前調査ミッションの結果を踏まえ、台湾企業との連携プロジェクトの深化及び新たな連携案件の創出に向け、商談や意見交換を実施

4. 人材育成事業

11,997千円

(1)九州デジタル経営塾

【自主事業】(8,748千円)

デジタル技術やビッグデータを活用した事業の変革、組織の変革、発想の変革、価値の変革に関して、経営層の理解の増進および参加経営者間のネットワーク構築を目的として「九州デジタル経営塾」を、九州経済連合会、九州経済同友会、九州商工会議所連合会、九州経営者協会、九州経済調査協会と連携し、長崎、佐賀、熊本、福岡（北九州）で開催した。

内容は1泊2日の宿泊を前提として、グループワークを中心にデジタルと経営を学びながら、経営者同士の交流を深め、自社におけるDX推進の可能性について考え、DX実装の気づきや決意を得ていただく場を提供した。交流会費などを含む有料での開催としたが、4箇所全体で108名が参加し、参加者へのアンケート調査の結果では総合満足度97%と大変良好な結果が得られた。

開催日/場所	内容
6月3、4日 長崎市 参加者：23名	○開催場所 ANA クラウンプラザホテル長崎グラバーヒル ○プログラム ・開講挨拶 一般財団法人 九州ホフノイハーションセンター 会長 瓜生 道明 ・来賓挨拶 長崎県 企画部/産業労働部 政策監 三上 建治 氏 ・講演 (有)あびや/(株)EBILAB 代表取締役社長 小田島 春樹 氏 ・ワークショップ (株)DXパートナーズ 代表取締役 村上 和彰 氏 同 アドバイザリーパートナー 徳永 美紗 氏 ・交流会
8月5、6日 佐賀市 参加者：24名	○開催場所 ホテルニューオータニ佐賀 ○プログラム ・開講挨拶 一般財団法人 九州ホフノイハーションセンター 会長 瓜生 道明 ・来賓挨拶 佐賀県 DX・スタートアップ総括監 北村 和人 氏 ・講演 (株)アイ・ティ・アール 会長/IGセクター・アリスト 内山 悟志 氏 ・ワークショップ (株)DXパートナーズ 代表取締役 村上 和彰 氏 同 アドバイザリーパートナー 徳永 美紗 氏 ・交流会
10月14、15日 熊本市 参加者：35名	○開催場所 ホテルメルパルク KUMAMOTO ○プログラム ・開講挨拶 一般財団法人 九州ホフノイハーションセンター 会長 瓜生 道明 ・来賓挨拶 熊本県 理事(デジタル戦略担当)/企画振興部 デジタル戦略局長 小金丸 健 氏 ・講演 (株)トライアル・ヘルティンクス IGセクターアドバイザー/(株)Retail AI Executive Advisor 西川 晋二 氏 ・ワークショップ (株)DXパートナーズ 代表取締役 村上 和彰 氏 同 アドバイザリーパートナー 徳永 美紗 氏 ・交流会
12月9、10日 北九州市 参加者：26名	○開催場所 プレミアホテル門司港 ○プログラム ・開講挨拶 一般財団法人 九州ホフノイハーションセンター 会長 瓜生 道明 ・施策紹介 福岡県商工部 中小企業技術振興課 課長補佐 藤木 秀明 氏 ・講演 (有)あびや/(株)EBILAB 代表取締役社長 小田島 春樹 氏 ・ワークショップ (株)DXパートナーズ 代表取締役 村上 和彰 氏 同 アドバイザリーパートナー 徳永 美紗 氏 ・交流会

(2)九州ネクストリーダー塾

【自主事業】（740千円）

中小企業や団体の経営幹部及びネクストリーダー層を対象として、「DXとオープンイノベーション」をテーマに、経団連が提唱する「起承転結」人材モデルを育成するための『九州ネクストリーダー塾2022』を開催した。

ビジネスモデル編ではグローバル化・デジタル化が進む経済社会の変化や事業ドメインの再定義など、今後の経営改革や新規事業を立案する構想力と実行段階で不可欠な行動力について、具体的な事例研究を通して理解を深めるとともに、スキル・ツール編ではネクストリーダーに必要なデータサイエンスとサイバーセキュリティの基礎を学んだ。全てオンラインでの開催とし計6回実施し、延べ531名が参加した。

アンケートでは、総合評価として回答者の71%が「非常に満足」、「満足」と回答した。参加者からは「グループディスカッションで異なる意見を聞くことができて良かった。」、「具体的な事例が多く良かった。」との良好な意見の一方で、「時間が足りなかった。」、「もう少し深掘りできたら」などの意見があり、来年度へ向けた課題の発見にもつながった。

回数	開催日	内容
第1回	8月2日 8月9日	ビジネスモデル編 「イノベーションとアントレプレナーシップ」 講師：九州大学大学院教授 高田 仁 氏 参加者合計：191名
第2回	8月23日 8月30日	スキル編 「データサイエンス基礎」 講師：(株)AIBOD CEO 松尾 久人 氏 " CTO トルヴェ・アントワン 氏 参加者合計：191名
第3回	9月6日 9月13日	ツール編 「サイバーセキュリティ脅威対策の基礎」 講師：九州大学サイバーセキュリティセンター長 岡村 耕二 氏 参加者合計：149名

(3)若手研究者海外研究交流支援事業

【自主事業】（2,509千円）

九州の若手研究者の国際的な感覚や海外との人的ネットワーク構築により九州の研究分野のグローバル化を図るため、大学・高専に所属する工学系・理学系の若手研究者の長期・短期留学および国際研究集会参加を支援するため、外部委員で構成する選考委員会で選考の結果、7件の研究発表を採択した。なお、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、海外渡航の自粛を受けて、1名の発表者がオンラインでの参加となったため、国際研究集会の参加費用を助成した。

区分	発表件名/発表者所属・役職	渡航先	渡航期間	備考
国際研究集会 (前期)	窒素ファインバブルの生成時間が異なるパームヤシ脂肪酸エステルとの交流および負極性雷インパルス電圧 (福岡大学 大学院工学研究科 博士課程前期1年)	パレルモ (イタリア)	8日間	現地発表
	ポリアクリル酸ナトリウムの固体電解質電気二重層キャパシタの特性 (福岡工業大学 大学院工学研究科博士課程前期2年)	青島 (中国)	4日間	オンライン発表
国際研究集会 (後期)	マイクロストリップ給電回路を活用した円偏波可変リングスロットアンテナ (佐賀大学 大学院理工学研究科 博士課程後期1年)	シドニー (オーストラリア)	5日間	現地発表
	PLD法で作成した異方性Nd-Fe-B系磁石膜にレーザーパワーが与える影響 (長崎大学 総合生産科学域(工学系) 助教)	ミネアポリス (米国)	7日間	
	電界領域 10^{-11} から 10^{-2} V/mにわたる電界-電流特性の連続計測 (九州大学 大学院システム情報科学研究所 助教)	ホノルル (米国)	8日間	
	ポリビニルアルコールを用いた掘削泥水の膨潤機構の制御について (九州大学 大学院工学府 博士課程後期1年)	アデレード (オーストラリア)	5日間	
	磁性合金の選択的合成のための磁場応用 (鹿児島大学 大学院理工学研究科 准教授)	フコック島 (ベトナム)	4日間	

5. 情報提供事業

1,682千円

(1)WEB サイト等による情報発信

【自主事業】 (1,287千円)

ホームページ（TOPスライダーでのイベント案内、POPアップ広告、SEO対策※）、メルマガ、FacebookやYouTube等のSNSを利用し、KOICの事業、研究会での調査結果、関連イベント情報やニュース、セミナーの動画配信等情報提供を行った。

令和5年2月末現在

主な内容	HP更新：38回、メルマガ配信（定期）：25回、メルマガ配信（事業個別）：44回、Facebook配信：19回、他
------	---

※ Search Engine Optimization の略で、検索サイトでの検索結果で自社のWebサイトを上位に表示させる対策のこと

(2)活字媒体による情報発信

【自主事業】 (395千円)

KOICの令和3年度活動内容と成果、研究会等での調査結果等をまとめた「KOIC年報（Year Book2021）（令和4年6月発行）」を作成し、役員、賛助会員、訪問企業等に配付した。

6. 収益事業

【自主事業】 収入概算 5,092千円

(1)成功報酬型コーディネータ事業

(収入4,600千円)

成功報酬型コーディネータが多方面から企業情報を集め、事業課題を抱える中小企業に出向き、経営層と面談して、合意の上で、事業計画の策定から知財戦略・販路の探索とマッチングまでを伴走型で支援するコーディネータ事業を平成27年度から実施している。

具体的には、成功報酬型コーディネータが企業に対し、定期的なコンサルタント、知財の取得と売却、試作の実施、利益の発生等、コーディネータ活動が成功した場合、KOICが報酬を受け取る成功報酬事業であり、成功報酬型コーディネータと経営層との信頼関係と緊張感を備えた実践的かつ継続的なコーディネータ事業である。

今年度はコロナ禍という制約の中、203件のコーディネータ活動を行い、13件（うち新規2件）の契約により、460万円の成功報酬収入があった。なお、KOICが受け取った成功報酬額のうち30%は、規定に基づき成功報酬型コーディネータが受け取っている。

① 活動実績

区分	令和4年度 (件数)	内容
新規企業発掘	21	優位な技術を有し、新製品開発・市場開拓を目指す中小企業の調査・発掘等
契約前 プレ支援事業	40	要素技術・コア技術の発掘 事業化の課題等の抽出と解決方法等の提示 知財の有効活用等の提示等
契約後支援事業	142	事業化計画の検討 知財活用先、試作先、共同開発相手、販売先等の探索と交渉 成功報酬契約項目の実践等
合計	203	-

② 成功報酬型の契約と報酬実績

コロナ禍でも積極的に活動し、2件の新規契約を行った。

契約を継続している11件のうち9件は、月1～2回訪問やWeb等で相談、アドバイスを
行い成功報酬を獲得した。2件は具体的な支援課題が現在は無く、契約更新を一旦停止中。

資金獲得支援を実施した6件のうち4件については、経済産業省「事業再構築補助金」に
採択され、事業が円滑に進むよう支援を行っている。

■ 成功報酬額

	令和4年度
成功報酬額（千円）	4,600

■ 令和4年度新規契約 2件

企業	支援事業	支援内容	成功報酬（一部）
A社	資金獲得支援	・ 資金(補助金等)獲得のための申請に係る支援	・ 着手金 10万円×2か月 ・ 獲得資金の10%
B社	資金獲得支援	・ 資金(補助金等)獲得のための申請に係る支援	・ 着手金 10万円×2か月 ・ 獲得資金の10%

■ 平成27年度～令和3年度契約分 11件（継続契約）

企業	支援事業	支援内容	成功報酬
C社	販路開拓支援	・ 製品化支援 ・ 製品販売	・ 試作品開発 15万円/件 ・ 当該製品の利益の10%
D社	ロボット開発支援 新規事業に係る支援	・ 試作品の開発 ・ 特許等の知財対応 ・ 量産体制の構築 ・ 製品販売 ・ ブランディングマッチング支援 ・ 販路開拓支援	・ 試作品完成時 50万円 ・ 特許登録時 5万円/件 ・ 量産ライン完成時 50万円 ・ 当該製品の利益の20% ・ マッチング契約 50万円/件 ・ 建築契約の利益の20%
E社	新規事業に係る支援 販路開拓支援 事業購入	・ 開発コンサル ・ 顧客開拓 ・ 許認可取得支援	・ 開発コンサル料 50万円/年 ・ 当該製品のロイヤリティの10% ・ 事業買収金額の10% ・ 医療許認可申請 5万円/回
F社	事業化支援	・ 原価計算 ・ 製造技術管理 ・ 試作費用計算	・ 試作事業に関わる売上の20% ・ 当該事業のロイヤリティの20%
G社	知財戦略 新規事業に係る支援 資金獲得支援	・ 知財戦略の立案、実行 ・ 資金(補助金等)獲得のための申請に係る支援	・ 10万円/月 ・ 獲得資金の5%
H社	事業化支援	・ 販路開拓支援 ・ 知財戦略支援	・ 開発製品の利益の15% ・ 特許出願 3万円/件
I社	事業化支援 資金獲得支援	・ 製品開発支援 ・ 事業化マネジメント ・ 新事業創出 ・ 資金獲得申請支援	・ 10万円/月 ・ 獲得資金の5%
J社	事業化支援	・ 製品開発支援 ・ 事業化マネジメント ・ 新事業創出	・ 10万円/月（4か月） ・ 具体的支援内容発生まで一旦停止中
K社	共同研究開発・技術提携支援 事業有償譲渡	・ 資金提供契約支援 ・ 有償譲渡契約支援	・ 提供支援、提携料の20% (10万円/月（3ヶ年）契約中)
L社	資金獲得支援	・ 資金(補助金等)獲得のための申請に係る支援	・ 着手金 10万円×2か月 ・ 獲得資金の10%
M社	資金獲得支援	・ 資金(補助金等)獲得のための申請に係る支援	・ 着手金 10万円×2か月 ・ 獲得資金の10% ・ 具体的支援内容発生まで一旦停止中

(2)産業技術事業化支援事業**(収入492千円)**

K O I C職員がコーディネータと協働して、九州の研究開発型企业に対し継続的にコンサルティング等を行い、製品開発、販売促進の支援を行う事業。

企業	支援内容	令和4年度 報酬額 (千円)
N社	・ビジネスモデルの検討 ・マーケティング戦略の立案および販売促進等 事業化支援	492

以 上